

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称
事業名	609	一般廃棄物減量等推進事業	01	01	一般会計
基本施策	24	ごみを減らす生活を送る	04	04	衛生費
			02	02	清掃費
			01	01	清掃総務費
担当部課名	青山支所 生活環境課		101	101	清掃管理経費
作成者氏名	落合博文	連絡先	52-3227	01	一般廃棄物減量等推進事業

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)				
事業の目的	ごみの排出者(市民、事業者)	今日の大量生産、大量消費、大量廃棄に象徴されるワンウェイ型の社会システムが環境破壊の要因となっていることから、社会経済システムの勿論のこと、環境への負荷の少ない持続可能なシステムへの転換が重要となっている。これに対応する資源循環型社会を構築する。				
本年度事業内容	青山支所の指定ごみ袋については、平成11年度より一層のごみの減量化とダイオキシン対策に取り組むため、また、この袋は半透明であり、袋に氏名を記入することとし分別責任を明示することとしている。このようなことから、平成15年度以降、可燃ごみの減量化傾向を示している。また、再生資源化回収業務委託事業については、245tの紙類等の有価物の回収を行っている。現在のごみ処理システムは4種21分類の内容により収集処理しているが、平成20年7月には新清掃工場の稼働に伴い容器プラの資源化を見据えて4種22分類の体					
開始年度	平成	年度	終了年度	平成	年度	根拠法令・要綱等

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員	正規職員 (人)	0.7	0.5	0.5
	人件費合計(A)	5,040	3,600	3,600
②支出内訳(千円)	事業費(B)	5,135	5,213	550
	需用費	2,383	4,400	200
	役務費	609	813	200
	委託料	2,142		
	その他	119		150
合計(A+B)		10,175	8,813	4,150
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国県支出金			
	地方債			
	受益者負担			
	委託料	1,030	3,500	
	一般財源	9,145	5,313	4,150
上記①～③に関する特記事項				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
可燃ごみ	t	1947	1910	1870			
1人1日あたりごみ排出量(青山支所)(伊賀の他地域)	g	500(743)	490	480			
可燃ごみ1人1日あたりごみ排出量(青山支所)(伊賀の他地域)	g	338(571)	345	338			
資源化率(青山支所)(他の地域)	%	26(21.3)	28	30			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
減量化率(可燃ごみ)(本年度ごみ処理量/前年度ごみ処理量)	前年度ごみ処理量を分母とし、本年度ごみ処理量を分子とする減量化率を指標とした。	%	4.91 目標 (3)	2(2)	2(2)
資源化率(資源ごみ処理量/ごみ処理量)	本年度ごみ処理量を分母とし、本年度資源ごみ処理量を分子とする資源化率を指標とした。	%	26 目標 (25)	28(28)	30(30)

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

平成元年度からのコンポストの購入補助制度にはじまり、環境教育の推進、指定ごみ袋制度等により、着実にごみの減量化、資源化が進行するとともに、市民の取り組みによるEM菌によるごみ減量等により着実に成果が現れている。新清掃工場建設に向けて容器包装プラスチック類の分別に取り組むべく名張市と検討が必要となっている。

評価	必要性	4	必要性:ごみの適正処理により快適な環境の確保が図れる。 有効性・達成度:ごみの減量化、資源化が着実に成果を上げている。 効率性:組合での広域のごみ処理により効率的運営が図られている。	総合評価
	有効性	4		
	達成度	4		
	効率性	4		
				A